

伝統工芸品等のデザイン・商品化に関する研究

－配色データの活用（第2報）－

Study of the traditional works which adopted design awareness －Utilization of color scheme data (Part 2)－

鳴海 藍、小松 勇

本事例は、配色データを活用した新配色の生活空間のための工芸品を提案し、アンケート調査によってデータの有効性を検証するものである。本報ではアンケートの分析結果についての詳細を述べる。

試作品は42点であり、これらを白を基調とした部屋に見立ててデザインしたブースに設置し、2度の展示会（弘前工芸協会展、弘前工業研究所一般公開、いずれも H30）に出展し、アンケート調査を実施。延べ167名の回答を得た。調査項目は以下の2点である。

- ・パステルカラーの作品に対する嗜好（5段階評価）
- ・「良さ」の指標（選択、自由記述）

パステルカラーの作品については、「とてもよい～よくない」までの5段階評価で調査した。結果、全体の約9割が作品について「とてもよい」「よい」と回答しており、新配色による工芸品は概ね受け入れられたと考えた(図1)。

「良さ」の指標については、最も気に入った作品について、その理由を「形・色・模様」の3要素から複数回答で選択させた。結果、「色／形／模様」の複合的因子が最も多く、「形」または「色」の単体因子がそれに続くことがわかった(図2)。次に、その理由について自由記述で回答させ、テキストマイニング手法で分析したところ、「色」というキーワードが頻出しており、配色について注目されていたことがわかった。また、「新しい」「モダン」など、こちらの意図しているイメージキーワードが見られ、今回展示した試作品が「新しい配色の工芸品」として認識されていたと考えられた(図3)。

今後は配色データの更なる活用促進を図るとともに、配色データの有効性について調査を進めていきたい。

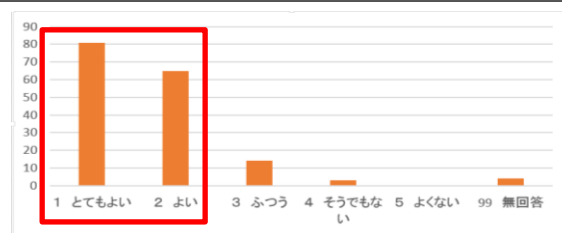


図1 パステルカラーの嗜好調査

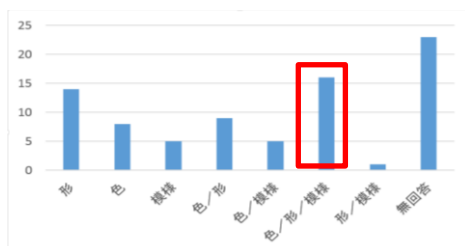


図2 気に入った理由
(3要素選択)

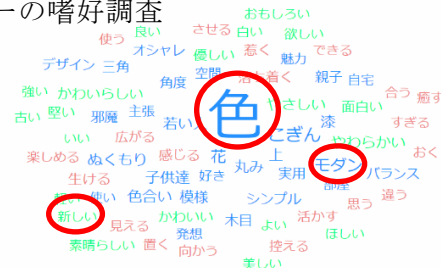


図3 気に入った理由(自由記述)の
テキストマイニング

(ユーザーローカル: <https://textmining.userlocal.jp/>)